



プレスリリース

2026年1月19日
一般社団法人 痴漢抑止活動センター

電車・バス内の痴漢被害者も犯罪者も、冤罪被害も生まないツール 第11回コンテスト受賞作「痴漢抑止バッジ」を製品化

一般社団法人 痴漢抑止活動センター(大阪市城東区関目、代表理事 松永弥生)は、電車・バスなど公共交通機関で発生する痴漢犯罪を抑止する「痴漢抑止バッジ」を製品化。希望者に無料で配布している。このたび、第11回痴漢抑止バッジデザインコンテストの受賞5作品を製品化し配布を始めた。

■「痴漢抑止バッジ」開発の経緯

「痴漢抑止バッジ」は、都内在住の16歳の女子高校生(当時)が母親と二人で考案しました。2015年春、電車内で1年間、毎日のように痴漢被害にあい続けた彼女は、「もう二度と痴漢にあいたくない!」と決意し、「痴漢は犯罪です。私は泣き寝入りしません!」と描いたカードを身につけて登下校を始めました。それ以来、彼女は痴漢にあっていません。

同じように痴漢被害に悩む方たちに使ってもらうため、学生を対象に開催する「痴漢抑止バッジデザインコンテスト」でデザインを公募。第11回目となる2015年には、148校から1014作品の応募がありました。

大学生による1次審査、中高校生による2次審査、あべのハルカスウォールギャラリー展示とWEB投票による最終審査を経て、受賞5作品が決定。2026年1月19日より、ネット上にて配布を開始します。

1. 製品コンセプト

電車・バスなど公共交通機関内で、痴漢被害にあわない 加害者が生まれない 痴漢冤罪被害も起きない バッジ

2. 最優秀賞 「痴漢、見てるよ。」 小林 蘿子(町田デザイン&建築専門学校)

■デザインコンセプト

痴漢には声をあげられなさそうな人が狙われやすいため、強く睨む女の子の目をモチーフにしました。被害者の泣き寝入りしないという強い意思と、抑止となる周囲の目も表現しています。

目が印象的になるように鮮やかなピンクを用いて、吊り上がった目で怒りを強調しています。

■痴漢抑止活動へのメッセージ

痴漢は、被害者が声を上げにくくことを逆手に取って行われる卑劣な行為です。このバッジを通して、被害を受けた人が「泣き寝入りしない」という意思を持てるよう。そして加害を未然に防ぐ“目”となるように。誰もが安心して交通機関を利用できる社会になるよう、そしてこの活動が必要なくなる日を願っています。

3. 受賞5作品 仕様 配布サイト



サイズ：直径 57mm

仕様：安全ピン／クリップ併用

新デザイン：5種類

配布サイト：<https://scbaction.ec-cube.shop/>

【本プレスリリースに関する連絡先】

一般社団法人 痴漢抑止活動センター
〒536-0008
大阪市城東区関目 5-13-15-305
松永弥生 (代表理事)

URL : <https://scbaction.org/>
mail : info_scb@scbaction.org
TEL: 06-7898-7808

1. 団体概要

名 称：一般社団法人 痴漢抑止活動センター
代表理事：松永弥生
設 立：2016年1月15日
住 所：〒541-0051 大阪市中央区備後町3-6-2 大雅ビル10F-242
目 的：当法人は、性犯罪防止・抑止のために、自治体、鉄道会社と協力し、生活の安全に資することを目的とする。
サ イ ト：<https://scbaction.org/>
S N S：@scbaction

2. 事業内容

- (1) 性犯罪の抑止・防止グッズの企画・製造・販売
- (2) 性犯罪・防犯意識の普及・宣伝
- (3) 防犯・抑止機器資機材の紹介
- (4) 犯罪被害防止・抑止対策の推進
- (5) 防犯ボランティア活動の支援
- (6) 性犯罪問題に関する研究並びにその啓蒙に関する事業
- (7) 前各号に掲げる事業に付帯又は関連する事業

3. 一般社団法人 痴漢抑止活動センター 設立のねらいと背景

通学電車内で痴漢被害にあっていた当時高校2年生の女子が、2015年春に母親と一緒に「痴漢抑止バッジ」を考案しました。バッジを身につけて電車に乗るようになって以来、ほぼ毎日のように受けていた被害が止まつたことをきっかけに、「同じように悩む人が、ひとりでも減ってほしい」という思いが形になりました。

このバッジを社会に普及し、必要な人に確実に届けるため、2015年11月に「痴漢抑止バッジプロジェクト」を発足しました。活動を一過性の支援で終わらせらず、継続して社会に働きかけていくために、2016年1月、一般社団法人 痴漢抑止活動センターを設立しました。

設立当初は、クラウドサービスを活用しながら、短期間で多くの方に活動を知っていただく機会をつくりました。痴漢抑止バッジデザインコンテストでは多数のデザイン応募が集まり、クラウドファンディングでも全国から支援が寄せられ、痴漢被害という社会課題が可視化されるきっかけとなりました。

その後、私たちは「配布」だけに留まらず、痴漢を“個人の我慢や自衛”に押しつけない社会をつくるために、活動を拡張してきました。痴漢抑止バッジは、単なるグッズではなく、「あなたは悪くない」「守られる権利がある」というメッセージを社会に提示する道具であり、被害を受けた人が声を上げる前段階としても機能するものです。

また、痴漢抑止バッジは毎年、学生を対象とした「痴漢抑止バッジデザインコンテスト」によって制作されています。この取り組みは、若い世代が痴漢という問題を自分ごととして考え、表現し、社会に届ける機会でもあります。これまでのコンテストは11回を数え、総参加校数は1,245校、応募数は7,735点、審査に関わった人は8,901人にのぼります。この数字は、痴漢が“個人の問題”ではなく、社会全体で解決すべき課題だと考える人が確実に増えてきたことの証でもあります。

私たちの活動は、鉄道会社や自治体、教育機関、警察など多様な主体との連携によって広がってきました。痴漢抑止バッジデザインコンテストは警察庁から後援を受け、兵庫県警・神奈川県警・沖縄県警・新潟県警・岩手県警などとも連携実績があります。行政や交通事業者と協力しながら、「痴漢は悪質な犯罪である」という認識を社会に浸透させる取り組みを続けています。

痴漢抑止バッジは、2015年3月から2026年6月までに累計29,256個を配布しました。支援者は累計815名、寄付金総額は7,741,000円となり、現在は184名のマンスリーサポーターに支えられています。

性犯罪は、家庭内でも話題にしづらく、子どもが被害を受けても「どうしたらいいか分からない」「言い出せない」という状況が生まれやすい現実があります。痴漢抑止バッジと付属のマニュアルは、被害を防ぐための知識を一方的に押しつけるものではなく、親子が「安全」について話し合う糸口をつくり、防犯意識を育てるきっかけになると考えています。

私たちはこれからも、痴漢を“仕方ないもの”として放置しない社会を目指します。被害にあった人が孤立せず、周囲が当たり前に通報し、加害者が当然のように止められる。そんな社会の実現に向けて、現場の声とともに、具体的な行動を積み重ねていきます。